微分積分1(微分) 自習スライド (Part 10) マクローリン展開

鈴木 敏行

神奈川大学

2023年03月01日

※ 転載や再配布を禁止する.

http://t21suzuki.html.xdomain.jp/

今回は, 具体的な関数のマクローリン展開 (マクローリン級数) を求めてみよう.

$$f(x) = \sum_{k=0}^{n-1} \frac{f^{(k)}(0)}{k!} x^k + R_n, \quad R_n = \frac{f^{(n)}(c)}{n!} x^n$$

(c は 0 と x との間にある数).

n 回微分したものに 0 を代入して n! で割ったものが x^n の係数 ということに注意する.

これから紹介するいくつかの関数については、関数が多項式で 近似されていく様子を現した動画を用意している。 ぜひ参照していただければありがたい。

具体的な関数のマクローリン展開

例 10.1. $f(x) = e^x$.

 $f^{(n)}(x) = e^x$ だから, $f^{(n)}(0) = e^0 = 1$. したがって, マクローリン展開は

$$\sum_{n=0}^{\infty} \frac{f^{(n)}(0)}{n!} x^n = \sum_{n=0}^{\infty} \frac{1}{n!} x^n = 1 + 1x + \frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{6}x^3 + \dots + \frac{1}{n!}x^n + \dots$$

これが元の関数 $f(x) = e^x$ と一致するのかについては、 剰余項を見ないといけない.

剰余項は $R_n = \frac{e^c}{n!} x^n$ である.

剰余項が十分小さいということを示すのに、次の事実を使う.

$$M>0$$
 のとき, $\lim_{n o\infty}rac{M^n}{n!}=0.$

 $M < N_0$ となる整数 N_0 を考える. $n > N_0$ のとき

$$0 < \frac{M^{n}}{n!} = \frac{M}{n} \times \frac{M}{n-1} \times \dots \times \frac{M}{N_{0}+1} \times \frac{M}{N_{0}} \times \frac{M^{N_{0}-1}}{(N_{0}-1)!}$$

$$< \frac{M}{N_{0}} \times \frac{M}{N_{0}} \times \dots \times \frac{M}{N_{0}} \times \frac{M}{N_{0}} \times \frac{M^{N_{0}-1}}{(N_{0}-1)!}$$

$$= \left(\frac{M}{N_{0}}\right)^{n-N_{0}} \frac{M^{N_{0}-1}}{(N_{0}-1)!}.$$

$$rac{M}{N_0} < 1$$
 だから, $\lim_{n o \infty} \Bigl(rac{M}{N_0}\Bigr)^{n-N_0} rac{M^{N_0-1}}{(N_0-1)!} = 0.$ はさみうちの原理より 0 に収束することがわかる

はさみうちの原理(数列版)

3つの数列 $\{a_n\}_n$, $\{b_n\}_n$, $\{c_n\}_n$ に対して $a_n \leq c_n \leq b_n$ であるとする.

もし, a_n と b_n が同じ α に収束するならば, c_n もこの α に収束する.

剰余項
$$R_n = \frac{e^c}{n!} x^n$$
 について.

$$x>0$$
 のとき, $0< c< x$ だから $e^c< e^x$. $0 \le R_n \le \frac{e^x}{n!} x^n$ で,

$$\lim_{n \to \infty} 0 = 0, \quad \lim_{n \to \infty} \frac{e^x}{n!} x^n = 0.$$

はさみうちの原理より、 $\lim_{n\to\infty} R_n = 0$.

x < 0 のとき, x < c < 0 だから $e^c < e^0 = 1$. $-\frac{1}{n!}|x|^n \le R_n \le \frac{1}{n!}|x|^n$ で,

$$\lim_{n\to\infty} -\frac{1}{n!}|x|^n = 0, \quad \lim_{n\to\infty} \frac{1}{n!}|x|^n = 0.$$

はさみうちの原理より, $\lim_{n \to \infty} R_n = 0$.

$$e^x = \sum_{n=0}^{\infty} \frac{1}{n!} x^n = 1 + x + \frac{1}{2} x^2 + \frac{1}{6} x^3 + \dots + \frac{1}{n!} x^n + \dots$$

** e^x のことを $\exp x$ と書くことがある.

例 10.2. $f(x) = \sin x$.

$$f^{(n)}(x) = \begin{cases} \sin x & n = 4k, \\ \cos x & n = 4k+1, \\ -\sin x & n = 4k+2, \\ -\cos x & n = 4k+3 \end{cases} \qquad f^{(n)}(0) = \begin{cases} 0 & n = 4k, \\ 1 & n = 4k+1, \\ 0 & n = 4k+2, \\ -1 & n = 4k+3. \end{cases}$$

 $f^{(2n)}(0)=0,\ f^{(2n+1)}(0)=(-1)^n$ と表せることに注意する. したがって, マクローリン展開は

$$\sum_{n=0}^{\infty} \frac{f^{(n)}(0)}{n!} x^n = \sum_{n=0}^{\infty} \frac{(-1)^n}{(2n+1)!} x^{2n+1}$$
$$= x - \frac{1}{6} x^3 + \frac{1}{120} x^5 + \dots + \frac{(-1)^n}{(2n+1)!} x^{2n+1} + \dots$$

剰余項は
$$R_n=rac{f^{(n)}(c)}{n!}x^n=rac{1}{n!}x^n\sin\Bigl(c+rac{n\pi}{2}\Bigr)$$
 である.

$$-1 \leqq \sin heta \leqq 1$$
 より $-rac{1}{n!}|x|^n \leqq R_n \leqq rac{1}{n!}|x|^n$ であり,

$$\lim_{n\to\infty} -\frac{1}{n!}|x|^n = 0, \quad \lim_{n\to\infty} \frac{1}{n!}|x|^n = 0.$$

はさみうちの原理より、 $\lim_{n\to\infty} R_n = 0$.

$$\sin x = \sum_{n=0}^{\infty} \frac{(-1)^n}{(2n+1)!} x^{2n+1}$$
$$= x - \frac{1}{6} x^3 + \frac{1}{120} x^5 + \dots + \frac{(-1)^n}{(2n+1)!} x^{2n+1} + \dots$$

例 10.3. $f(x) = \cos x$.

$$f^{(n)}(x) = \begin{cases} \cos x & n = 4k, \\ -\sin x & n = 4k+1, \\ -\cos x & n = 4k+2, \\ \sin x & n = 4k+3 \end{cases} \qquad f^{(n)}(0) = \begin{cases} 1 & n = 4k, \\ 0 & n = 4k+1, \\ -1 & n = 4k+2, \\ 0 & n = 4k+3. \end{cases}$$

 $f^{(2n)}(0) = (-1)^n$, $f^{(2n+1)}(0) = 0$ と表せることに注意する. したがって, マクローリン展開は

$$\sum_{n=0}^{\infty} \frac{f^{(n)}(0)}{n!} x^n = \sum_{n=0}^{\infty} \frac{(-1)^n}{(2n)!} x^{2n}$$
$$= 1 - \frac{1}{2} x^2 + \frac{1}{24} x^4 + \dots + \frac{(-1)^n}{(2n)!} x^{2n} + \dots$$

剰余項は
$$R_n=rac{f^{(n)}(c)}{n!}x^n=rac{1}{n!}x^n\cos\left(c+rac{n\pi}{2}
ight)$$
である.

$$-1 \le \cos heta \le 1$$
 より $-\frac{1}{n!}|x|^n \le R_n \le \frac{1}{n!}|x|^n$ であり,

$$\lim_{n\to\infty} -\frac{1}{n!}|x|^n = 0, \quad \lim_{n\to\infty} \frac{1}{n!}|x|^n = 0.$$

はさみうちの原理より, $\lim_{n\to\infty}R_n=0$.

$$\cos x = \sum_{n=0}^{\infty} \frac{(-1)^n}{(2n)!} x^{2n} = 1 - \frac{1}{2} x^2 + \frac{1}{24} x^4 + \dots + \frac{(-1)^n}{(2n)!} x^{2n} + \dots$$

オイラーの等式

マクローリン展開することの一番の重要な点は、x に代入するものを一般的な数にしてもよいということである。

正当化はさておき e^x のマクローリン展開の式に x に y i $(i=\sqrt{-1}$ は虚数単位) を代入してしまおう.

$$e^{yi} = \sum_{n=0}^{\infty} \frac{1}{n!} (y i)^n$$

$$= 1 + y i + \frac{1}{2} (-y^2) + \frac{1}{6} (-i y^3) + \frac{1}{4!} y^4 + \frac{1}{5!} y^5 i$$

$$+ \frac{1}{6!} (-y^6) + \frac{1}{7!} (-i y^7) + \cdots$$

次に注意しよう: $i^n = \begin{cases} 1 & n = 4k, \\ i & n = 4k+1, \\ -1 & n = 4k+2, \\ -i & n = 4k+3 \end{cases} = \begin{cases} (-1)^\ell & n = 2\ell, \\ (-1)^\ell i & n = 2\ell+1. \end{cases}$

先ほどのマクローリン展開を $\,i\,$ がついていない項と $\,i\,$ がついている項とで振り分ければ

$$e^{yi} = \left[1 - \frac{1}{2}y^2 + \frac{1}{4!}y^4 - \frac{1}{6!}y^6 + \dots + \frac{(-1)^{\ell}}{(2\ell)!}y^{2\ell} + \dots\right] + i\left[y - \frac{1}{6}y^3 + \frac{1}{5!}y^5 - \frac{1}{7!}y^7 + \dots + \frac{(-1)^{\ell}}{(2\ell+1)!}y^{2\ell+1} + \dots\right]$$

それぞれが $\cos y$, $\sin y$ のマクローリン展開に一致しているので、次の等式が得られた.

オイラーの等式(オイラーの公式)

$$e^{i\theta} = \cos\theta + i\sin\theta.$$

この公式は便利なので、使える機会があったらどんどん使ってほしい、

例 10.4. $f(x) = \log(1+x)$

$$f'(x) = \frac{1}{1+x} = (1+x)^{-1}$$
, $f''(x) = -(1+x)^{-2}$, $f'''(x) = 2(1+x)^{-3}$ であり, 一般的に

$$f^{(n)}(x) = (-1)^{n-1} (n-1)! (1+x)^{-n} \quad (n=1, 2, \ldots).$$

$$f(0) = 0$$
, $f'(0) = 1$, $f''(0) = -1$, $f'''(0) = 2$, $f^{(n)}(0) = (-1)^{n-1} (n-1)!$ $(n = 1, 2, ...)$ である. したがって、マクローリン展開は

$$\sum_{n=0}^{\infty} \frac{f^{(n)}(0)}{n!} x^n = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{(-1)^{n-1}(n-1)!}{n!} x^n = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{(-1)^{n-1}}{n} x^n$$
$$= x - \frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{3}x^3 - \frac{1}{4}x^4 + \dots + \frac{(-1)^{n-1}}{n} x^n + \dots$$

剰余項を小さくするという作業は大変であり、 実は -1 < x < 1 でなければいけない.

GIF 動画もあわせてみてください.

剰余項は一般に次のような表し方もある.

- ラグランジュの剰余項 (従来): $R_n = \frac{f^{(n)}(c)}{n!}(x-a)^n$.
- ベルヌーイの剰余項 (積分形): $R_n = \int_a^x \frac{f^{(n)}(t)}{(n-1)!} (x-t)^{n-1} dt$.
- コーシーの剰余項: $R_n = \frac{f^{(n)}(c)}{(n-1)!}(x-a)(x-c)^{n-1}$.

 $f(x) = \log(1+x)$ については、積分形の剰余項を用いないと、剰余項が小さいことを示すのが難しい。

応用上は無限級数ではなく、有限個の項で止めることが多い、

*** 無限に足すのは現実的ではない.

n 次までのマクローリン展開 [マクローリン級数を n 次の項まで] を求めるには,

- 🚹 n 回微分する
- 20のときの値を求める
- ③ k! で割る (k は微分した回数)
- $oldsymbol{a}$ これで出てきた数が x^k の係数である.
- ⑤ それらを組み合わせて多項式にする.

例 10.5. $f(x) = \sqrt{1+x}$ の 3 次までのマクローリン展開

$$f(x) = (1+x)^{\frac{1}{2}} \qquad f(0) = 1 \qquad c_0 = \frac{1}{0!} \times 1 = 1$$

$$f'(x) = \frac{1}{2}(1+x)^{-\frac{1}{2}} \qquad f'(0) = \frac{1}{2} \qquad c_1 = \frac{1}{1!} \times \frac{1}{2} = \frac{1}{2}$$

$$f''(x) = \frac{1}{2} \times -\frac{1}{2}(1+x)^{-\frac{3}{2}} \qquad f''(0) = -\frac{1}{4} \qquad c_2 = \frac{1}{2!} \times -\frac{1}{4} = -\frac{1}{8}$$

$$f'''(x) = -\frac{1}{4} \times -\frac{3}{2}(1+x)^{-\frac{5}{2}} \qquad f'''(0) = \frac{3}{8} \qquad c_3 = \frac{1}{3!} \times \frac{3}{8} = \frac{1}{16}$$

以上から、3次までのマクローリン展開は

$$f(0) + f'(0)x + \frac{f''(0)}{2}x^2 + \frac{f'''(0)}{6}x^3$$
$$= c_0 + c_1x + c_2x^2 + c_3x^3 = 1 + \frac{1}{2}x - \frac{1}{8}x^2 + \frac{1}{16}x^3.$$

例 10.6. $f(x) = \frac{1}{\sqrt{1-x}}$ の 3 次までのマクローリン展開

$$f(x) = (1-x)^{-\frac{1}{2}} \qquad f(0) = 1 \qquad c_0 = \frac{1}{0!} \times 1 = 1$$

$$f'(x) = -\frac{1}{2}(1-x)^{-\frac{3}{2}}(-1)$$

$$= \frac{1}{2}(1-x)^{-\frac{3}{2}} \qquad f'(0) = \frac{1}{2} \qquad c_1 = \frac{1}{1!} \times \frac{1}{2} = \frac{1}{2}$$

$$f''(x) = \frac{1}{2} \times -\frac{3}{2}(1-x)^{-\frac{5}{2}}(-1)$$

$$= \frac{3}{4}(1-x)^{-\frac{5}{2}} \qquad f''(0) = \frac{3}{4} \qquad c_2 = \frac{1}{2!} \times \frac{3}{4} = \frac{3}{8}$$

$$f'''(x) = \frac{3}{4} \times -\frac{5}{2}(1-x)^{-\frac{7}{2}}(-1)$$

$$= \frac{15}{8}(1-x)^{-\frac{7}{2}} \qquad f'''(0) = \frac{15}{8} \qquad c_3 = \frac{1}{3!} \times \frac{15}{8} = \frac{5}{16}$$

以上から、3次までのマクローリン展開は

$$f(0) + f'(0)x + \frac{f''(0)}{2}x^2 + \frac{f'''(0)}{6}x^3$$
$$= c_0 + c_1x + c_2x^2 + c_3x^3 = 1 + \frac{1}{2}x + \frac{3}{8}x^2 + \frac{5}{16}x^3.$$

おまけ: マクローリン級数とべき級数

f(x) のマクローリン展開が次の通りに与えられたとしよう

$$f(x) = \sum_{n=0}^{\infty} c_n x^n = c_0 + c_1 x + c_2 x^2 + \dots + c_n x^n + \dots$$

このとき, f'(x) および $\int_0^x f(t) dt$ のマクローリン展開はそれぞれ

$$f'(x) = \sum_{n=1}^{\infty} nc_n x^{n-1} = \sum_{n=0}^{\infty} (n+1)c_{n+1}x^n$$
$$= c_1 + 2c_2x + 3c_3x^2 + \dots + nc_nx^{n-1} + (n+1)c_{n+1}x^n + \dots$$

$$\int_0^x f(t) dt = \sum_{n=0}^\infty \frac{c_n}{n+1} x^{n+1}$$
$$= c_0 x + \frac{c_1}{2} x^2 + \frac{c_2}{3} x^3 + \dots + \frac{c_{n-1}}{n} x^n + \frac{c_n}{n+1} x^{n+1} + \dots$$

また, f(x) および g(x) のマクローリン展開が

$$f(x) = \sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n = a_0 + a_1 x + a_2 x^2 + \dots + a_n x^n + \dots,$$

$$g(x) = \sum_{n=0}^{\infty} b_n x^n = b_0 + b_1 x + b_2 x^2 + \dots + b_n x^n + \dots$$

とき, f(x)g(x) のマクローリン展開は

$$f(x)g(x) = \sum_{n=0}^{\infty} \left(\sum_{r=0}^{n} a_{n-r}b_r\right) x^n$$

= $a_0b_0 + (a_1b_0 + a_0b_1)x + (a_2b_0 + a_1b_1 + a_0b_2)x^2 + \cdots$
+ $(a_nb_0 + a_{n-1}b_1 + \cdots + a_{n-r}b_r + \cdots + a_0b_n)x^n + \cdots$

無限級数なので、本来は項の足す順番を換えたり、微分積分をしてしまうのは危険な作業なのだが、気にせず、有限次の多項式と同じようにやってよいことが知られている.

逆に、マクローリン展開が

$$\sum_{n=0}^{\infty} c_n x^n = c_0 + c_1 x + c_2 x^2 + \dots + c_n x^n + \dots$$

となるような関数 f(x) を考えることができる.

ただし、無限項の和なので収束するのかわからない、

そこで、次のような方法で収束するxの範囲を調べることができる。

|ダランベールの方法|

$$L = \lim_{n o \infty} \left| rac{c_{n+1}}{c_n} \right|$$
 が収束するとする.

このとき, $|x|<rac{1}{L}$ であれば収束する (関数として意味を持つ).

コーシーの方法

 $L = \lim_{n o \infty} \sqrt[n]{|c_n|}$ が収束するとする.

このとき, $|x|<rac{1}{r}$ であれば収束する (関数として意味を持つ).

ただし, $\frac{1}{0}=\infty$ と解釈し, このときはすべての x で収束するといえる.

この $\frac{1}{r}$ で計算できる数を収束半径という.

例 10.7. $\sum_{n=0}^{\infty} \frac{(2n)!}{(n!)^2} x^n$ の収束半径

ダランベールの方法を用いて計算する.
$$c_n = \frac{(2n)!}{(n!)^2}$$
 なので、

$$\frac{c_{n+1}}{c_n} = \frac{(2(n+1))!}{((n+1)!)^2} \times \frac{(n!)^2}{(2n)!}$$

$$= \frac{(2n+2)(2n+1)(2n)(2n-1)\cdots 3\cdot 2\cdot 1}{(n+1)n(n-1)\cdots 2\cdot 1\cdot (n+1)n(n-1)\cdots 2\cdot 1}$$

$$\times \frac{n(n-1)\cdots 2\cdot 1\cdot n(n-1)\cdots 2\cdot 1}{(2n)(2n-1)\cdots 3\cdot 2\cdot 1}$$

$$= \frac{(2n+2)(2n+1)}{(n+1)(n+1)} = \frac{2(2+\frac{1}{n})}{1+\frac{1}{n}}.$$

$$L = \lim_{n \to \infty} \left| \frac{c_{n+1}}{c_n} \right| = \lim_{n \to \infty} \frac{2(2 + \frac{1}{n})}{1 + \frac{1}{n}} = \frac{2 \times 2}{1} = 4.$$

したがって,
$$\sum_{n=0}^{\infty} rac{(2n)!}{(n!)^2} x^n$$
 の収束半径は $rac{1}{L} = rac{1}{4}$ である.